



宮島学センター通信の発刊を寿いで

—膨らむ「新しい学」への期待—

公立大学法人 県立広島大学

理事長・学長

赤岡 功

宮島学センターは、文科省のいわゆる現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）「学生参加による世界遺産宮島の活性化」（平成18年～20年度）の成果を定着させ、発展させるために、開設（平成21年4月）したものです。

宮島関連の貴重な、そして大変興味深い資料も収集し、専任の教員もおき、学生たちの参加により、一般に公開して、高校生も市民も来訪していただいています。開所式は6月18日でしたが、本年1月までの約7ヶ月に、15高校1中学、研究機関の方々や一般社会人計673名の来訪をみています。また、宮島学は学部の正規の授業として取り入れられています。

宮島学センターには、地域史・文化史・交流史の3部門がおかれています。温故知新の謂のように、歴史研究は宮島学のような「新しい学」建築の土台であると思います。

今日、全国的に地域学は現在ブームのようになっていますが、「地域学」の枠内で宮島学が構築できるものではないと考えられますし、しかも、寡聞ではありますが、地域学の学問としての方法についての議論の展開はまだ希薄なようです。したがって、本格的な学としての宮島学の構築は大変困難でかなりの長い期間が必要だと思えます。

しかし、本学は歴史学の研究でも定評を得ておりますので、まずは歴史の3部門から宮島学に向かうことで着実に「宮島学」ができていくものと考えます。ティセラ（1564-1604）により描かれたというヨーロッパで最初の独立した日本図にすでに宮島が描かれていますから宮島はこのころから世界的に知られていたということになり、その後の文化史、交流史でも全国的であり、アジアを通して世界的でもあったと考えられています。また、植物でも昆虫でも宮島には固有種があり、清盛による航路の開削（自然の作り替え）も有名です。

紙幅がなく、上の事柄のみで説明は省きますが、これらを考え合わせますと、宮島学は、人類だけでなく動植物も、また想像上の「生き物」も「観念」も、そして、空陸海湖川をもふくめて、「地球社会の調和ある共生・発展」を考えることのできる学として成立していくのではないかと、世界遺産の島と宮島学センターにまったく大きな夢をえがいています。そして、その活動に若い学生諸氏が参加することを大変嬉しく、期待をしています。

諸賢のご支援ご協力を切にお願いいたします。



宮島学センター開所式

平成21年6月18日、開学記念日の行事の一環として宮島学センター開所式を挙りました。開所式には、来賓として、眞野勝弘・廿日市市長、今橋孝司・廿日市市教育委員会教育長、福田道憲・厳島神社禰宜、平山真明・大願寺住職、中村靖富満・社団法人宮島観光協会会長、木本弘士・廿日市市立宮島小学校・中学校校長をお迎えしました。また、佐藤邦明・文部科学省高等教育局大学振興課専門職、森正夫・公立大学協会相談役にもご出席いただきました。

赤岡功学長のあいさつの後、来賓を代表して眞野勝弘・廿日市市長より祝辞をいただき、佐藤邦明専門職、森正夫相談役からもお言葉をいただきました。秋山伸隆・宮島学センター長によるセンター概要説明、スタッフ紹介の後、宮島学センターの看板の除幕式を執りおこないました。

式典に続いて、宮島学センター展示室と図書館企画展示「宮島への旅～時空を超え、名所を巡る～」をご案内しました。



「宮島学センター」 開所式祝辞

廿日市市長

眞野勝弘



本日ここに、県立広島大学「宮島学センター」の開所式が挙られるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

宮島は、自然と文化が織りなす島であり、島全体が国の史跡でございます。また、平成8年にはユネスコにおいて、厳島神社とその周辺の自然が世界遺産として登録されており、廿日市市や国だけではなく、人類共有の財産でもあります。

廿日市市は、平成17年の宮島町との合併後、世界遺産「宮島」を廿日市市の顔として、国内外に向けて発信しており、昨年は、過去最多の343万人を超える来島者数を記録いたしました。

また、今年度からスタートしました、「第5次廿日市市総合計画」においても、目指す都市像を「世界遺産を未来につなぎ、多彩な暮らしと文化を育む都市・はつかいち」と掲げ、宮島を始めとする豊かな自然環境、優れた歴史文化を未来につないでいくとともに、持続的に発展・自立する都市へ進化することを目指しております。

県立広島大学と廿日市市は、平成18年11月に包括協定を締結し、各種計画の策定への参画や公開講座の実施、宮島学園との連携事業などの取り組みを行って参りました。

また、県立広島大学におかれましては、「学生参加による世界遺産宮島の活性化」をテーマに、平成18年度から3か年にわたる研究をされ、地域の活性化に貢献いただいております。この成果を発展させるべく、この度、「宮島学センター」を開所されるとともに、「宮島学」を正規の授業科目として、設定していただきましたことは、赤岡学長をはじめ、県立広島大学の関係者の方々に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

今後は、大学の教育研究とともに、学生の方々の若く、みずみずしい力によって、より一層宮島が活性化されることを期待しております。

終わりにあたり、県立広島大学、そして「宮島学センター」のご発展と、本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は、県立広島大学宮島学センターの開所式、誠にありがとうございます。

「地域文化学(宮島学)」開講

平成21年度より人間文化学部国際文化学科の授業科目として「地域文化学(宮島学)」を新たに開講しました。2年生を中心に、46名が履修しました。

この授業では、日本史、日本文学、日本芸能史、中国文学、英文学などを専門とする教員が、さまざまな視点からとらえた「宮島の魅力」について講義しました。また、特別講師として宮島彫伝統工芸士 広川和男氏をお招きし、実演を交えた特別授業もおこないました。

期末にはレポート報告会を実施し、6名の学生たちが学びの成果を報告しました。

日程	テーマ	講師
4/13	地域文化学(宮島学)の視点と方法	秋山 伸隆
4/20	平清盛の厳島信仰	松井 輝昭
4/27	平家納経に親しむ	西本 寮子
5/1	厳島神社の神仏習合	松井 輝昭
5/11	厳島信仰と法華経	樹下 文隆
5/18	厳島の舞楽に見るアジアの文化交流	柳川 順子
5/25	厳島神主家と神領衆	秋山 伸隆
6/1	戦国期の宮島の祭	大知 徳子
6/8	石見銀山と厳島神社	秋山 伸隆 大知 徳子
6/15	能楽の普及と宮島	樹下 文隆
6/22	厳島の神仏分離	松井 輝昭
6/29	江戸期の宮島の祭	大知 徳子
7/6	宮島に生まれ、生きて、そして今	宮島彫伝統工芸士 広川 和男氏
7/13	石風呂と桜狩ー江戸時代の厳島詣ー	西本 寮子
7/27	外国人が見た明治の宮島	天野みゆき
8/3	レポート報告会	ー



図書館企画展示

「宮島への旅～時空を超え、名所を巡る」

平成21年6月16日から6月24日まで、本学広島キャンパス図書館において図書館企画展示を開催しました。第1章「発」ー瀬戸内海を歩き、神秘の島へー、第2章「巡」ー名所を巡り、島内を満喫するー、第3章「想」ー思い出とともに、家路へー、という3つのテーマを設定し、宮島関係の旅行案内・絵葉書・絵図・英語文献などを展示しました。

この展示は、学芸員養成課程の授業科目「博物館実習」(担当:松井輝昭教授)の受講生5人(国際文化学科4年生:住吉春子、中川亜耶、福井理恵、的場仁美、山田優子)が担当しました。学生たちは、展示計画の立案から、展示資料の選定、図録やキャプションの原稿の作成、展示作業まで、すべて自分たちの手でおこないました。また、展示期間中に3回、学生による展示説明会を実施しました。期間中に270名の方が観覧されました。

担当した学生の感想

毎日絵葉書を眺め続けていると、目を追うごとに何百枚もの絵葉書の中のメッセージに気づき始めました。一枚の中に隠された真実、今の宮島と違う姿…絵葉書は記念品や手紙としての役割だけでなく歴史を語る財産ですね。この絵葉書の面白さを皆さまにも感じていただければ幸いです。



(的場 仁美)

英語文献では、外国人ならではの視点で宮島を記しています。馴染みのある宮島でも外国人の眼を通して見てみると新しい顔を発見でき、新鮮な気持ちで作業に臨むことができました。皆さまにも英語文献を通して「宮島への旅」を新鮮な気持ちで楽しんでいただくことができましたら幸いです。

(住吉 春子)





公開講座・公開講演会

公開講座

平成18年度から3年間実施した現代GP連続公開講座「厳島の歴史と文化」全13回をひきつぎ、公開講座を開催しました（廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催）。今年度は延べ340名の方が受講されました。今後も年3回のペースで実施します。



日程	テーマ	講師
9/9	厳島合戦—その勝敗の分かれ目—	秋山 伸隆
12/2	観音信仰の霊場としての厳島神社内宮	松井 輝昭
2/3	厳島神社の内侍	大知 徳子

公開講演会

12月12日、三原市中央公民館において公開講演会を開催しました。

この講演会は三原市教育委員会と共催したもので、64名の方が参加されました。



講演1「厳島信仰と法華経」 樹下 文隆
講演2「厳島合戦と小早川隆景」 秋山 伸隆

今後も年1回、県内各市町教育委員会との共催で公開講演会を実施します。平成22年度は安芸高田市での開催を予定しています。



廿日市市立宮島小・中学校 (宮島学園)との連携

1. 教員志望学生の活動

9月1日から週1回のペースで、教員を志望している4年生2名を廿日市市立宮島小学校・中学校（以下、宮島学園）に派遣しました。学生たちは、授業や学校行事などに参加し、日常的に子どもたちと関わってきました。多忙を極める学校現場で、学生を受け入れご指導くださった木本弘士校長はじめ教職員の皆様に厚くお礼申し上げます。

以下は学生による体験記です。

■宮島学園で学んだこと

志賀 裕美

私は10月からの3ヶ月間、週に1回宮島学園で1日を過ごしました。中学生の英語と国際コミュニケーション科の授業に参加し、授業の補助や、教材作りなどをさせていただきました。宮島学園で過ごす時間の中で学んだことは多くあります。その中でも、私の心に強く残ったのは、毎回の授業の準備は手を抜かずに行うこと、実際に英語を使用する場面を見せて考えさせる導入をすること、という2つです。

小規模校である宮島学園では、別のクラスでもう一度同じ授業をすることができません。だからこそ余計に、生徒の反応を予想し事前の準備をしっかりとっておかなければならないと学びました。当たり前のことなのですが、手間がかかる作業であっても授業の準備は手を抜かずに行うと強く思うことができました。

また導入として、実際に英語で会話する場面を見せて、生徒に考えさせるということも学びました。最近では、ALTが授業に参加することも多くなってきているため、授業においてALTをできるだけ活用することで、生徒に実際の英語を体感させることもできると思います。宮島学園では多くの授業にALTが参加しているため、ALTとの授業の経験がなかった私は、多くのことを学ぶことができました。

11月と12月には、8年生（中2）のクラスで実際に授業をする機会をいただきました。授業では、実際の英語の使用場面を再現した導入をしてみても、思ったより難しいということがわかりました。しかし、それによって自分自身の課題を改めて認識することができました。

宮島学園では、先生方や生徒たちの協力があり、本当によい経験ができました。最初は不安も多かったボランティア活動ですが、今となっては参加して本当に



良かったと思っています。今回の活動で学んだことを忘れずに、今後の教師としての生活に臨みたいと思います。今後も多くの学生が実際の教育現場で学ぶことができる環境が整うように願っています。最後になりましたが、宮島学園の方々や多くの方々のおかげで、これからの私にとって財産となる貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

■宮島学園で学んだこと

山崎 唯

私が宮島学園で学ばせていただくことになったのは、現場の様子を知りたい、実際に子どもにふれてみたいと思ったからです。私は大学に入ってから小学校教員になりたいと考えるようになりました。しかし、大学には小学校教諭の免許を取得する課程がなかったため、小学校教員資格認定試験を受験し、免許を取得しました。そのため小学校での教育実習をしておらず、このまま小学校の教師になるのには不安を感じていました。そんな時に、宮島学園での活動のことを聞き、ぜひ参加し、現場を知りたいと思いました。

宮島学園では、子どものこと、教師の仕事、学校組織など、私にとって見るもの聞くことすべてが勉強になりました。目の前で先生方が授業をされるのを見ることは、吸収すべきことばかりでした。子どもに対する接し方、授業構成、子どもの反応、先生の動き、様々な視点で授業観察をさせていただき、あれもこれも真似をしたいと思うことばかりでした。

授業以外の時間にも、子どもたちとたくさん話をすることができ、全学年の児童とふれあいました。それぞれの学年の子どもの様子がわかり、学年ごとの指導の仕方の違いを知りました。

また、宮島学園の教室・廊下の掲示物には、子どもたちの成長の歴史や生活のヒントがいっぱいで、勉強する環境整備の大切さも知ることができました。



美術の授業に参加

そして、私が宮島学園で学ぶ中で最も大切だと感じたことは、児童と信頼関係を築くことです。教師がぶれてはいけないということです。子どもは、良いことをしたら褒めてくれる、悪いことをしたら叱ってくれる、そんな先生についていくのだなと感じました。子どもと教師に信頼関係ができてこそ、子どもはぐんぐん成長していくと思います。宮島学園の先生方の指導を見て、信頼関係の大切さを知ることができました。

私は、宮島学園で学んだこと、感じたことを決して忘れません。教師になったら、いつでも子どもたちのことを思い、彼らが成長する手助けをするために、これからも学び、成長していきたいと思います。

2. 宮島学園文化祭での宮島資料展示

宮島学園の文化祭（10月30日）で、宮島学センター所蔵の資料を展示しました。これは6月に開催した図書館企画展示「宮島への旅～時空を超え、名所を巡る」の一部を再現したものです。展示を企画した5人の学生が会場で説明をおこない、児童・生徒・保護者や地域の方々、約150名が来場されました。



宮島観光英語ボランティアガイド講座

「宮島観光英語ボランティアガイド講座」(全5回)を実施しました。講師はリチャード・ウェバー氏です。この講座では、宮島の観光案内の知識を身につけ、外国人観光客を英語でガイドできる力を養いました。

学生たちは講座と並行して、ガイドのための準備もおこなってきました。まず宮島公認ガイドの横山忠司氏に宮島の観光ポイントを実際に案内していただき、ガイドのノウハウを学びました。再度宮島の現地を訪れて日本語でのガイドを練習し、さらに大学の講義室でスクリーンを使用したバーチャル英語ガイドをおこないました。

1月19日には、受講生のうち4名(国際文化学科1年生:藤本春菜、好井咲、4年生:住吉春子、社会人の受講生:芝加代子さん)が宮島の現地で、外国人観光客を対象とした観光英語ボランティアガイドを実施しました。

午前中はオーストラリア出身の男女2名、午後はアメリカ合衆国出身の女性2名を案内しました。



全国厳島神社参詣記 ①

佐々井厳島神社

所在地: 広島県安芸高田市八千代町佐々井

参拝日: 平成20年9月7日

広島バスセンターから吉田出張所行バスで1時間余り、八千代支所前で降りて、国道54号線を広島方面へ戻り、^{ひのかわ}簸川を越えると、道に面した木の鳥居が見える。そこから石の鳥居までの参道に並ぶ灯籠の様子は神鹿と弥山だ。各地の厳島神社を巡る中でよく見かけたので、仮に厳島灯籠と呼ぼう。



境内の説明板によれば、楽音寺安芸国神名帖に「吉田郡十二前」中に「四位佐々比明神」が載るので、正和2年(1313)には厳島神

を主祭神とする大明神社が当地に鎮座していたこと、玉殿には文和2年(1353)再建の記録があること、毛利輝元が天正2年(1574)良材を寄進して佐伯源左衛門に社殿を造営させ(棟札現存)、高田郡内四ヶ村(小山・西浦・坂・有留)に厳島明神社を勧請して高田五神明神と呼び、佐々井明神社をその総社としたとする。『芸藩通志』では、玉殿が5基あるので五社明神だとする説も載せるが、江戸期に高田郡内の厳島信仰の中核だったことに違いはない。

境内の石碑には正治元年(1199)勧請と記され、同様の記述は広島県観光ホームページにもあるが、根拠は不明。平氏時代、高田郡には厳島神領があったので、早くから厳島信仰が根付いていたのだろう。本殿内の玉殿5基には南北朝期のものを含み、県指定重要文化財。最古の玉殿としての建築史的価値もさることながら、宗像三神以外の二柱の来歴も興味深い。

拝殿の床下に、「おかげん舟」が収納されている。傷んでいるが、平成10年11月と記した看板がある。近くの向原町坂の山田地区では現在も「おかげんさい」が厳島社の管絃祭と同じ旧暦6月17日に行われているが、佐々井でも祭りが続いていたことがわかる。



(樹下 文隆)

研究余録 ①

ぶとまがり

かつて厳島神社では、元旦の午前9～11時ごろ、本社（大宮）と客人社に、社家や内侍（巫女）が出仕し、「国家安全の御祈念」すなわち「公御供」をおこなっていました。『芸州厳島圖會』巻之五の記事を見ると、その際に、「伏兎糰餅」をお供えしていたことがわかります。

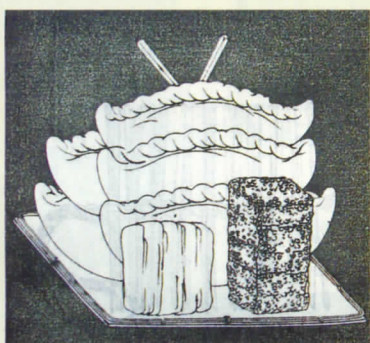


図1 伏兎糰餅之圖『藝州厳島圖會』巻之五

「伏兎糰餅」とは一体どんな餅なのでしょうか。じつは、「伏兎」と「糰」は別々のお餅で、どちらも唐菓子に分類されます。唐菓子は「からくだもの」とも呼ばれ、奈良時代に中国から伝わった菓子の製法によって作られる、米や麦などをこねた団子のようなものです。唐菓子にはたくさんの種類があります。材料と製法はほとんど同じですが、その形状によって「八種の唐菓子」と「十四種の果餅」に大別することができます。「ぶと」も「まがり」も「十四種の果餅」の内に分類されます。

図1に見える餃子のようなお餅。これが「ぶと」です。「ぶと」とは「餛飩」・「伏兎」と書き、兎の形や伏せた兎の形に作られます。「まがり」は「糰」・「餉」と書き、藤蔓のように曲がりくねらせた形に作られた餅です。

「ぶと」も「まがり」も作り方は簡単で、もち米の粉をこねて成形し、胡麻油などで揚げれば完成です。餛飩を入れるわけではありませんから、現在の私たちの感覚からすると、見た目期待するほどに美味しいものではないかもしれません。

「ぶと」や「まがり」といった唐菓子を神前に供えるという行為は、さほど珍しいことではないようです。たとえば『芸州厳島圖會』には、「かかるものを神にたてまつることは当社のみならず。加茂・八幡などにもふるくよりその例ありとなん」とあります。また、

奈良の春日大社の記録を見ると、寿永二年（1183）正月二日の記事に「今年御菓子・御菜、日の餅二種各五枚、伏兎一種、鉤一種…」(「鉤」は「まがり」のこと)とありますから、唐菓子が日本に伝えられて間もなく、神前へのお供えが始まったのでしょうか。

厳島神社での「伏兎糰餅」のお供えは、いったいつ頃から始まったのでしょうか。定かではありませんが、「ぶと」や「まがり」が平安時代の貴族に好まれた唐菓子であることを考えあわせると、平清盛が厳島を信仰していた平安時代後期に、すでに厳島神社の神前でお供えが始まっていたかもしれません。

しかし現在、この「伏兎糰餅」が厳島神社の神前に供えられることはありません。明治時代の神仏分離の際に、廃止されてしまったからです。なぜ、神事である元旦の「伏兎糰餅供御」が廃止されたのでしょうか。それは、この「伏兎糰餅供御」が行われる際に、僧侶が本社（大宮）において大般若経を転読し、客人社にて法華儀法を読んでいたので、神仏分離後には、「伏兎糰餅供御」の神事そのものが廃止されて、神式の元旦祭に代わったそうです。

奈良の春日大社や京都の賀茂御祖神社では、今でも神職によって「ぶと」などの唐菓子が神饌として供えられています。宮島で途絶えてしまった伝統は、まだ生きています。「ぶと」や「まがり」は、「春日社所製」、「鴨社所製」といったように、各神社で微妙に形が違ってきます(図2)。『芸州厳島圖會』に見える図と見比べると、厳島の「ぶと」も、これらとはわずかに形が異なります。

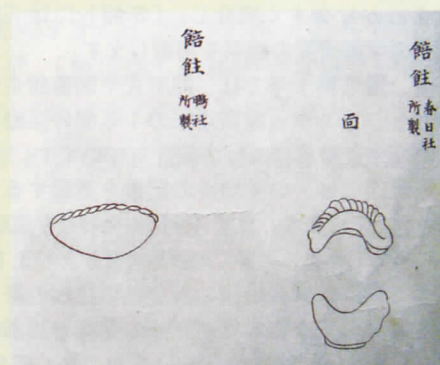


図2 『集古図』（京都府立総合資料館蔵）

現在、奈良のある老舗では、春日大社の「ぶと」をヒントに製造された「ぶと饅頭」が販売されています。『芸州厳島圖會』の挿絵を見るたびに、宮島で忘れられてしまった厳島神社の「ぶとまがり」を、いつか味わうことができないだろうかと思っています。

(大知 徳子)



平成22年度公開講座のお知らせ

第4回宮島学センター公開講座を次のとおり開催します。

- 日時：7月14日（水）14：00～15：30
- 場所：国民宿舎みやじま杜の宿（廿日市市宮島町大元公園）
- 題目：「巖島神社における月次連歌」
- 講師：人間文化学部教授 松井輝昭
- 内容：巖島神社に大学などの合格祈願をするとき、天神社に参り絵馬を奉納しています。しかし、天神社はもともと月次連歌の会所として建てられました。このたびの講座では、天神社が建てられた背景やその意義についてお話しします。
- 受講料：無料
- 募集人数：20名程度（席に若干の余裕があるため、追加募集します）



天神社(巖島神社)

第4回の講座の聴講を希望される方は、次の要領でお申し込みください。

- 申込方法：往復はがきに①名前、②ふりがな、③郵便番号、④住所、⑤連絡先（電話、ファックス等）を、返信面の表に受講される方の名前と住所をご記入の上、下の宛先に郵送してください。
- 申込締切：平成22年6月22日（火）
- 申込・問合せ：〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目1-71
県立広島大学宮島学センター「宮島学センター公開講座④」係
TEL.082-251-9550（直通）

なお、申込多数の場合は、抽選になることがあります。

第5・6回の予定は、右のとおりです。

日程	テーマ	講師
9/15	「巖島縁起」の世界(仮)	樹下 文隆
12/1	正月の神事・祭礼、ぶとまがり	大知 徳子

編集後記

宮島学センター通信第1号をお届けします。

センターでは、毎年「通信」と「年報」を発行する計画です。「通信」ではセンターの活動状況をわかりやすく紹介し、「年報」には「宮島学」の学術研究の成果を掲載します。

さて、通信第1号では、開所式や図書館企画展示など、センター設置以来の1年間の活動の様子を記事と写真によって紹介しています。

また通信には、いくつかの記事を連載することを計画しています。まず「全国巖島神社参詣記」です。県内・県外には多くの巖島神社があります。これまで教員が学会出張の折などに全国の巖島神社を参拝してきましたが、その記録を連載します。なお、「巖島神社」という名称でなくても、宗像三神を祀る神社も含まれます。

もう一つは「研究余録」です。宮島や巖島神社に関する興味深い話題や研究のヒントを紹介していきたいと思います。本号では「ぶとまがり」を取り上げています。

宮島学センターは、学内外の多くの方々のご理解とご協力によって誕生しました。今後ともセンターへのご支援をお願いいたします。

(秋山 伸隆)



編集・発行

宮島学センター通信 第1号

平成22年3月25日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9550

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/miyajimagaku/index.html>